

## ふれあい散歩道 - 6

「松尾芭蕉の句碑を訪ねて」



「松島や鶴に身をかかれほとゝぎす」



ダイジェスト版

〔追記〕：HPから引用致しました。

2011年6月17日

## 「松尾芭蕉の句碑を訪ねて」解説 - 1

(はじめに)

松尾芭蕉は正保元年(1644)伊賀上野に生まれた。幼名は金作、元服の頃宗房という名前になり、これを「宗房」と読み併号とした。寛文二年(1662)藤堂家に出仕。寛文六年(1666)藤堂家を辞し俳諧の道を志し、江戸に下って32歳の頃「桃青」という併号に、38歳の頃木因書簡ではじめて「はせを」と署名、39歳「武蔵曲」で「芭蕉」の号を用いる。その他「芭蕉庵桃青」・「釣月軒」・「泊船堂」「風羅坊」等の併号が知られています。

以来、芭蕉は生涯五つの紀行文(のざらし紀行・鹿島紀行・炭くきゅう>小文・更科紀行・おくの細道)、約千句に及ぶ発句(俳句)と数多くの俳文、歌仙を残したが、その中で「おくの細道」は、多くの人々にみちのくへの旅心を誘った。

俳聖・松尾芭蕉は元禄七年(1694)五月、永い江戸での生活に別れを告げ、故郷伊賀の国へ旅立った。そのとき詠まれたのが

「麦の穂を たよりにつかむ 別れかな」

と川崎まで送ってくれた人々に別れを告げた。

その年の十月十二日、大阪御堂筋にある「南御堂」の花屋の借り座敷で、十人の門弟に見守られてあの有名な

「旅に病んで 夢は枯野を かけめぐる」

の句を最後に、五十一歳の生涯を閉じたのである。芭蕉亡き後、全国津々浦々、約千五百市町村(全国市町村の三分の一)に三千二百を超える芭蕉塚(翁塚)句碑等が建立されてきた。

このことは、江戸期俳諧に親しんだ人々が多かったことを物語っている。

芭蕉の句碑は川崎市内に六基あり、神奈川県下には約六十基あるといわれています。

芭蕉は句を詠んだ地に建てられた句碑は箱根山で富士山を詠んだ句碑など数基しかありません。

そういった点から考えますと「麦の穂」の句碑は大変貴重だと言えます。

以上

(参考資料)

- ・(専修大学図書館蔵書:全国の芭蕉句碑・塚碑・文学碑・大全集「石に刻まれた芭蕉」 弘中 孝著より)
- ・(専修大学図書館蔵書株式会社明治書院発行:「芭蕉俳句大成 岩田九郎著」より。)
- ・(川崎市高津区大山街道活性化推進協議会「文学碑めぐり」より)

## 「松尾芭蕉の句碑を訪ねて」解説 - 2

このたび松尾芭蕉の句碑を訪ねた内容をまとめてみました。ご興味のある方々に  
にご一読いただければ幸いです。

漂泊の旅に生きた江戸時代二の俳人、松尾芭蕉。生誕から370年を経過し、「俳聖」ゆかりの地では記念の催しが相次ぐ。でも、その旅に秘められた目的があったとしたら！芭蕉（1644～94）は数えて46歳だった1689年、江戸を出発し、東北、北陸を経て、大垣(岐阜県)に至る約5ヶ月、600里（約2400<sup>キロ</sup>）に及ぶ旅に出た。（中略）

ところが、曾良が旅の行程を忠実に記したとされる日記が1943年に再発見されると、泊まった場所や滞在日数などが「おくのほそ道」と多少異なることが判明。芭蕉の出身が忍者で有名な三重県伊賀市ということもあり、旅は情報探索が目的で、芭蕉は幕府の隠密だったとの説が盛んに論じられるようになった。

芭蕉隠密説を唱える一人が、光田和信・国際日本文化研究センター准教授（日本古典文学）だ。古地図などから、芭蕉が出発前に住んだ江戸深川の「芭蕉庵」は、元は幕府の水上交通を取り締まる役所があった場所で、関東の治安を守る伊奈代官家の土地に立ち寄っていた長屋だと突き止めた。「そんな場所に一般市民が簡単に住めるとは考えにくい」（中略）

旅の目的は何だったのか。光田さんは、一つは外様の雄藩・仙台藩の探索とみる。この時期、仙台藩は幕府から日光東照宮の修理を命じられたが、膨大な費用負担に反発の動きもあった。芭蕉は仙台藩の近くで長期滞在し、句会を何度も開いたのに、領内では一度も開かず、わずか13日で通り過ぎた。（中略）

？ 隠密説を補強するのが、曾良の存在だ。曾良は晩年、全国の政情や民情を査察する幕府の巡検使の随員になった。芭蕉との旅でも幕府から密命帯びていても不思議はない。「おくのほそ道」の行程を自転車ですらもたつた作家の嵐山光三郎さんは著書で指摘する。「曾良が隠密であることをカムフラージュするためには、芭蕉が、そういった曾良の本業を知らないわけではない」（中略）

だが、早川由美研究員(近世文学)によると、当時の成人男性は1時間に4<sup>キロ</sup>程度、10時間ほど歩くのは普通のことで、決して無理な距離ではないという。「芭蕉が隠密だったという明確な証拠があるわけではなく、様々な見方ができる。いまだに話題になるのは、それだけ魅力的な人物だったという事でしょう」と話す。

（そのころ世界は）芭蕉が活躍した17世紀後半、欧州では貿易などを通じて国の富を増やす重商主義政策がとられ、海外とのつながりが緊密化していった。イギリスでは、議会が中心となって国王を追放する。「名誉革命」（1688～1689年）が起き、立憲王政が成立。フランスでは1682年、絶対王制の象徴的建造物ともいわれるベルサイユ宮殿がつくられるなど、国王ルイ14世が強大な権力をふるった。中国では明から王朝交代した清が最盛期に入り、1683年には鄭氏政権を倒して台湾を編入した。

（上記文章は、東京朝日新聞朝刊2014年9月1日(月)「文化の扉」から引用）

## 「松尾芭蕉の句碑を訪ねて」解説 - 3

### 東京都23区の順番をご存じですか

・なぜ、こうなのでしょう。・たしい答えとしては、旧自治省（現総務省）がつくったコード番号表。これがこの順番です。（全国地方公共団体コード、財団法人地方自治情報センターHP）

・では、自治省でなぜこの順番したのか？このあとは推測で適当に書かせていただきます。

千代田区は旧江戸城＝皇居。あるいは、日本を動かす官庁街の千代田区霞ヶ関もここですね。ここを中心と考えたのでしょうか。ここからの「の」の字にぐるぐる回って移動して行きます。

・徳川家康は、江戸城の海側を埋め立て町をつくっていく。近くは武家屋敷。遠くは町人。えどじょうのまえがその海側2番「中央区」。ここから江戸南の山の手へ行く。「の」の字に回る。港、新宿、文京・・・両国橋より東はかつては下總国。江戸に編入されたのは、1857年の明暦の大火の後の江戸の復興時。

・1868年大政奉還後東京府が設置されたときは特に、足立、葛飾、江戸川、荒川の一部は千葉県東葛郡とともに東京府でなく小菅県（こすげけん）でした。これが2年後に東京府に編入になった。

こんな経緯があったので、順番ここが最後なのかな。

以上推論含めて書きました。もっと正しく理解できたら直します。

・あと、板橋区の次が練馬になっていますが、ここは終戦直後板橋が二つに分かれて練馬区が誕生したのでした。

（順番）

1, 千代田区      2, 中央区      3, 港区      4, 新宿区      5, 文京区      6, 台東区

7, 墨田区      8, 江東区      9, 品川区      10, 目黒区      11, 大田区      12, 世田谷区

13, 渋谷区      14, 中野区      15, 杉並区      16, 豊島区      17, 北区      18, 荒川区

19, 板橋区      20, 練馬区      21, 足立区      22, 葛飾区      23, 江戸川区

（HPより引用しました）

2016年8月27日

## 「松尾芭蕉の句碑を訪ねて」解説 - 4

### おくのほそみち（山形県）

「気分は芭蕉」

そう銘打って毎年、山形市の山寺観光協会が主催する投句会に参加を申し込んだ。

集合日時は「7月13日午後2時」。千段の石段が続く立石寺（山寺）に登り始める時間にしてはやや遅めだが、この設定には理由があった。

#### 閑か（しづか）さや岩にしみ入蝉の声

松尾芭蕉（1644～94）が「おくのほそ道」の旅の途上、この句を詠んだ立石寺に登ったのが、327年前の7月13日（陰暦5月27日）午後3時ごろ。同じ時刻に山を登って同じ時刻に山を登って同じ景色を見て、芭蕉になった気分で一句詠むという趣向なのだ。

立石寺は860年、慈覚大師（円仁）が開いたと伝えられる天台宗の寺院。四季折々の魅力があり、年間65万～70万人が訪れる。ガイドの押切登美子さん（68）は「観光客が一番多いのは、サクランボ狩りとセットできる6月と紅葉の10月ですね」と話す。古刹の魅力を倍増させるのが芭蕉の句だ。山寺観光協会は「芭蕉の風景に会いに行こう」と宣伝する。旅に生きた芭蕉の名は、現代日本人の旅心を刺激してやまない。天気予報によれば、あいにく当日は悪天候。そこで快晴だった前日、一人で山に登った。小宮豊隆（ニイニゼミ説）と斎藤茂吉（アブラゼミ説）の文学者2人が1920年代、論争までしたというセミの鳴き声を聞いたかった。

山の通称にふさわしく、威容を誇る巨岩が重なる立石寺。登山口から800段を上った標高約400mの場所に宙にせり出した舞台の形をした「五大堂」がある。絶景に見とれてみると、川の流れてまじって、たしかにセミが鳴いていた。

立石寺の第70代、清原正伝（せいでん）住職（66）を訪ねると、「ジージーと聞こえたでしょう？」。「午後の遅くから鳴くニイニゼミで、周囲の雑音を消すように鳴くから、『閑さ』なんだと思います」

芭蕉が弟子の河合曾良（そら）をつれ、江戸を出たのは1688年5月16日。全行程約2400kmを約150日間かけて歩き、亡くなる94年まで推敲（いこう）を重ねた。「おくのほそ道」は死の8年後に刊行された。私たちが古文の授業で習うのは、本文のごく一部と、こんな代表句くらいだろう。

夏草や兵どもが夢の跡

五月雨をあつめて早し最上川

改めて本を手にとると、5カ月及ぶ旅なのに意外なほど本文は短い。原稿用紙30枚分程度と、短編小説ほどの長さだ。具体的な日付が15日分しか記述されていないのも、考えてみれば不思議である。どうして芭蕉はこんなにクールなのか。「おくのほそ道」には、読む

者がこうってしまう場面がある。

新潟県の市振（親不知）。芭蕉と曾良は伊勢参りを目指す遊女2人と同宿。遊女に「心細いからぜひ同行してほしい」と涙ながらに懇願されるがきっぱりと断る。そのあとに有名な句が配される。

### 一家（ひとつや）に遊女もねたり萩の月

だが今では、この逸話自体が芭蕉の「作り話」という見方が有力だ。その根拠となるのは戦時中の1943年に世に出た旅の同行者、曾良の「随行日記」。道中の日時や金銭、面会者などを記録したメモである。

両者の比較から、「おくのほそ道」には事実の改変や脚色、省略が数多くあることがわかった。中でも遊女のくだりは、改変をこえる「虚構」とされる。芭蕉は、現実の旅を題材に虚実を織りませ、「作品」を巧緻に構成することに心血を注いだのだ。

では、芭蕉がめざした「文学」とは何なのか。だが、俳句の門外漢としては、まずこんな基本的な問いに立ち止まってしまう。芭蕉のどこがそんなにすごいのだろうか？俳人の長谷川權さん（62）は、芭蕉を日本文学史上の「巨大なダム」にたとえる。「長らく続いてきた王朝文学は江戸期にいったん芭蕉というダムに全て流れ込み、そこを通過する間に、過去の古典の達成も取り込みながら大衆へも届く俳諧に作り替えられ、再び流れ出していく」

1686年、「おくのほそ道」の旅の3年前に詠まれた一句から伝説は始まる。

### ふるいけや蛙飛び込む水のおと

弟子の各務支考の著書「葛の松原」によれば、まず芭蕉は「蛙飛び込む水の音」と詠んで、弟子達を驚かせた。細かい言語的規範に満ちた伝統的和歌の世界では「蛙は鳴き声を詠む」とルールが定められており、「飛び込む音」と結ぶ表現は斬新だった。さらに、「上五」について弟子の一人が、「万葉集」や「新古今和歌集」などの和歌で蛙とセットで春を表現する「山吹や」を提案したが、芭蕉は「古池や」とした。

冬眠から起きた蛙がよるよると進んで水に飛び込む音、という卑近な日常の風景に感じる季節感。それ以前は滑稽さが売りの「言葉遊び」だった俳諧が新しい芸術表現として誕生した瞬間だった。長谷川さんは「古池に蛙が飛び込んで水の音がした」ではなく、「蛙が水の中に飛び込む音を聞いて、心の中に古池が浮かんだ」と解釈すれば、この句が切り開いた新しさがわかると説く。

「現実の音を聞き、心に古池のイメージが浮かんぶ。俳諧が、心の世界を詠んできた伝統的和歌と肩を並べる文芸となった。だから『薫風開眼』の一句と言われる。

そして、芭蕉は「おくのほそ道」に旅立つ。西行ら先人達が歌で詠んだ名所旧跡を訪ねるだけでなく、開眼した「心の世界を詠む句」をさらに旅で深めるがあったと、長谷川さんはみる。

近世の俳諧を研究する筑波大学の清登典子の教授の芭蕉像は「若々しくて革新的な詩人」

だ。「芭蕉というと、『頭巾をかぶって杖をつく老人』といった像を思い浮かべる人が多くもどかしい。実際は、和歌や連歌や漢詩が目を向けなかった庶民の日常生活にある美や詩情を見だし、新しい文芸を生み出したのです」と強調する。

芭蕉が高みに上げた俳諧は弟子やその弟子を通じ、次第に日本全国に広がり、愛好者を増やした。それに連れ、歌学に通じた貴族や僧だけが享受できる美ではなく、庶民層にも実感できる新しい美意識が浸透して行く。清登教授は言い添える。

「芭蕉がいなければ、現在私たちが日々の暮らしで当たり前のように感じる季節感や美への感受性も育っていなかったかも知れません。その意味で、芭蕉は日本人の美意識の変革者ともいえます」

山寺のイベント当日。やはり昼には雲行きが怪しくなり、午後2時前から激しい雨が石段をたたき始めた。だが雨天決行。十数人の参加者は傘をさして歩き始め、霧に包まれる五大堂で句を詠んだ。

優秀作に「夏とぼく芭蕉を感じる自然界」（中嶋虎太郎）と「霧がくれ山々かすみ風景画」（布施英二）の2句が入った。いずれも近くの山寺中学校2年生の作品だ。

セミも姿隠す悪天候でも句をひねり出す彼ら。その美意識にも、芭蕉のDNAが伝わっているのだらうと思いつつ、季語が気になり一句も完成しなかった自分を恥じた。

文・中島鉄郎

（メモ）

芭蕉の「おくのほそ道」への旅は、1689（元禄2）年5月16日（陰暦3月27日）に江戸深川を出発し、10月に大垣（岐阜県）へ到着して終わる。約150日間のうち、現在の山形県での滞在日数は4分の1をしめる。

松島などの歌枕（和歌に詠まれた名所旧跡）を訪ねた宮城県側から山刀伐（なたぎり）峠を超えて尾花沢に入り、紅花問屋を営む知己の俳人鈴木清風の世話になるなどして当地だけで10泊した。人の勧めで予定になかった山寺まで40<sup>キロ</sup>を馬と徒歩で進む。立石寺に登ってふもとで1泊後、引き返して最上川沿いの大石田へ。新庄、羽黒山、月山と旅を続け、日本海に出た。尾花沢市の芭蕉・清風歴史資料館によれば、現代の芭蕉ファンは交通の便の都合から、芭蕉とは逆に山寺から尾花沢に向かい、その後最上川を下るルートをたどることが多いという。

JR仙山線で山形から約20分。宝珠山立石寺は、山寺駅の目の前に位置する。約33万坪の境内に大小30の堂塔が立ち並ぶ一大霊場だ。山の上にある「奥之院」までは曲がりくねった計1015段と言われる石段が続く。

登山口の石段を登ると、国指定重要文化財の根本中堂。本尊を安置し、開山以来の「不滅の法灯」がともされる。14世紀中ごろに初代山形城主が再建した建物で、ブナ材の建築物では日本最古とされる。そこから山門に向かって歩くと、「芭蕉・曾良像」が目に入る。芭蕉は頭巾をかぶり、共に旅した曾良は杖と笠を手にして少し離れて立つ。

（以下略）（上記文章は東京朝日新聞2016年7月30日（土）「みちものがたり」から引用

2015年11月3日

(東京地区編)

1, 「大津絵の・・・」の句碑：浄土真宗本願寺派法重寺 晴海通り

- ・ 建立：明治初年 大蕎甫（ダイジョウホ）ら【大正12年関東大震災の折破壊補修】
- ・ 東京都中央区築地3-17-10 : 【東京メトロ日比谷線築地駅下車 徒歩10分】



【句 碑】大津絵の 筆のはじめは 何佛

2, 「春もやゝ・・・」の句碑：浄土真宗本願寺派築地本願寺【築地別院】

- ・ 建立：明治29年【1896】霜月
- ・ 東京都中央区築地3-17-10 築地本願寺【築地別院】【東京メトロ日比谷線築地駅下車徒歩10分。】



【句 碑】春もやゝ けしき調う 月と梅

3, 「一里は・・・」の句碑：臨済宗大徳寺派天現寺 本堂庭

- ・ 建立：文政6年【1823】10月 古綱庵萬獄社中
- ・ 場所：東京都港区南麻布4-2-25 【東急東横線中目黒で東京メトロ日比谷線広尾駅下車出口2を左に徒歩10分天現寺橋跨線橋左へ（駅から2つ目の信号）



【句 碑】一里は【ひとさとは】 皆花守りの 子孫かや



4 , 「古池や・・・」の句碑：弁財天 浄土宗宝殊院

・ 建立：文化10年【1813】4月 萬獄社中

・ 場所： 東京都港区芝公園 4 - 8 - 5 5 【小田急線新宿駅經由都営地下鉄大江戸線赤羽橋駅下車 徒歩5分【東京タワー方面】】



【句 碑】古池や 蛙飛び込む 水の音

5 , 「山路来て・・・」の句碑：浄土宗善光寺

・ 建立：嘉永元年【1848】3月 台山。

・ 場所：東京都港区北青山3丁目5 - 17 〔東京メトロ表参道駅下車 徒歩約3分。〕



【句 碑】山路来て 何やら床ゆかし 堇草【すみれそう】

6 , 「なつ来ても・・・」の句碑：黄檗宗海蔵寺

・ 建立：新碑：平成7年〔1996〕。

・ 場所：東京都港区北青山2 - 22 - 17 〔東京メトロ表参道駅下車 徒歩10分。〕



〔句 碑〕なつ来ても ただひとつ 一つ哉

7 , 「百歳の・・・」の句碑：日蓮宗 瑞光寺 本堂右庭寺

・ 建立：年代不詳

・ 場所：東京都新宿区原町2 - 3 4 【都営地下鉄 大江戸線牛込柳町駅下車徒歩3分】



【句 碑】百歳の けしきを庭の 落葉哉

8 , 「春なれや・・・」の句碑：東京新宿鎮座花園神社 威徳稻荷前

・ 建立：明治19年(1896)3月：碑陰に28俳人の句を刻む

・ 場所：東京都新宿区新宿5 - 1 7 - 3：JR山手線新宿駅下車徒歩10分

〔東京メトロ・都営新宿線新宿3丁目E1出口徒歩2分。〕



(句 碑) 春なれや 名もなき山の 朝かすみ(薄霞)

9 , 「蓬菜にき・・・」の句碑：東京新宿鎮座花園神社 社務所入口前

・ 建立：寛永7年(1778)：仲秋 内藤新宿惣旅籠中(右肩欠落)。

・ 場所：東京都新宿区新宿5 - 1 7 - 3：JR山手線新宿駅下車徒歩10分。



(句 碑) 蓬菜に きかはや伊勢の 初たより

10, 「古池や・・・」の句碑：関口芭蕉庵

- ・ 建立：文化10年【1813】4月 萬獄社中
- ・ 場所：関口芭蕉庵 東京都文京区関口2-11-31・【JR飯田橋駅東京メトロ有楽町線江戸川橋駅下車 徒歩15分【神田川遊歩道方面・椿山荘裏・細川家下屋敷徒歩1分】



【句 碑】古池や 蛙飛び込む 水の音

〔メモ〕江戸時代を代表する俳人松尾芭蕉(1644~1694)が、2度目の江戸入りの後、1677年から3年間この地に住んだ。当時、旧主筋の藤堂家が神田上水の改修工事を行っていて、芭蕉はこれにたずさわりの、工事現場か水番屋に住んだといわれる。【HPより引用】

11, 「一しくれ・・・」の句碑：浄土宗慈眼院沢蔵司稻荷〔たくぞうすいなり〕

- ・ 建立：大正7年【1918】10月12日瀧澤公雄
- ・ 場所：東京都文京区小石川3-17-12：【JR総武線水道橋駅・東京メトロ園下車徒歩15分。】



【句 碑】一しくれ 礫【つぶて】やふりて 小石川

12, 「櫻狩き・・・」の句碑：浄土宗嶺松山弘願院昌清寺

- ・ 建立：旧碑：寛政8年【1796】安彦 再建碑昭和59年9月工藤道誉竜順
- ・ 場所：東京都文京区本郷1-8-3：【東京メトロ丸の内線本郷3丁目駅下車徒歩10分。】



【句 碑】櫻狩き ときや日々に 五里六里

「メモ」当寺は浄土宗?松山弘願院昌清寺と称され、元和元? (1615) の創建である。開祖は朝倉きよ(お清の方)、駿河大納言忠長(家光の弟)の乳母である。父二代將軍秀忠と母お江は忠長を寵愛し、忠長に次期將軍職を譲ろうと考えた。しかし兄家光の乳母春日局が家康に直訴するに及んで、將軍は家光に決まった。忠長は駿河城主となったが、なお大坂城主を要請したため家光の?りにふれ、?地は没収され、高崎城に幽閉され自害した。寛永十? (1633) 28歳であった。忠長死後、忠長夫人お昌の方(信長の曾孫)は剃髪し松孝院と号した。乳母のお清も剃髪し、お昌の一字をもらい、昌清尼と称した。松孝院は忠長

高に高亭で字の誤りを正した。(文京区教育委員会提供より)

13, 「草の戸も・・・」の句碑：江東区芭蕉記念館 入口

・東京都江東区常盤1-6-3【東京メトロ半蔵門線 清澄白河駅下車徒歩10分】

・建立：年代不詳



【句 碑】草の戸も 住替わる代ぞ ひなの家

14, 「古池や・・・」の句碑：江東区芭蕉記念館 庭

・建立：年代不詳

・東京都江東区常盤1-6-3【東京メトロ半蔵門線 清澄白河駅下車徒歩10分】



【句 碑】古池や 蛙飛込む 水の音

15, 「川上と・・・」の句碑：江東区芭蕉記念館 庭

・場所：東京都江東区常盤1-6-3 【東京メトロ半蔵門線 清澄白河駅下車徒歩10分】



【句 碑】川上と この川下や 月の友

#### 【メモ：東京都江東区の沿革】

江東区は、我が国の文学史上偉大な業績を留めた松尾芭蕉「ゆかりの地」です。

芭蕉は、延宝8年【1680】それまでの宗匠生活を捨てて日本橋から深川の草庵に移り住みました。そして、この庵を拠点に新しい俳諧活動を展開し、多くの名句や「おくのほそ道」などの紀行文を残しています。

この草庵は、門人から贈られた芭蕉の株が生い茂ったところから「芭蕉庵」と呼ばれ、芭蕉没後、武家屋敷に保存されておりましたが、幕末から明治にかけて消失しました。

大正6年【1917】の大津波の後、常盤1丁目から「芭蕉遺愛の石の蛙」【伝】が出土し、同10年に東京府は、この地を「芭蕉翁古池の跡」と指定しました。江東区はこのゆかりの地に、松尾芭蕉の業績を顕彰するため、昭和56年（1981）4月19日に芭蕉記念館【地際1-6-7】、平成7年【1995】4月6日に隅田川と小名木川に隣接する地に同分館を開館しました。

16, 「古池や・・・」の句碑：芭蕉稲荷神社

・ 建立：平成14年〔2002〕

・ 場所：東京都江東区常盤1-3 : 【東京メトロ半蔵門線清澄白河駅下車徒歩7分】



【句 碑】古池や 蛙飛込 水の音

【メモ：芭蕉稲荷神社】

【解説】芭蕉は延宝8年【1680】に門人杉山杉風【さんふう】【1647～1732】の生け?の番小屋に移り住み、後に深川芭蕉庵と呼ばれた。芭蕉没後、付近は尼崎藩主松平遠江守の屋敷となった。大正6年【1917】の意大津波の時に石造の蛙が現れたので、この稲荷に納め、芭蕉翁古池の跡【都指定史跡】となった。此の石蛙は芭蕉記念館に保存・展示されている。【ふる池や】句碑は平成14年に建てられた。 【「こうとう文化まっぴ」より引用】

17, 「古池や・・・」の句碑：東京都立清澄庭園

・ 建立：昭和9年【1934】其角堂9代目 晋永湖建立

・ 場所：【東京都江東区清澄3-3【東京メトロ半蔵門線「清澄白川駅」下車 A3出から徒歩3分。】



【句 碑】古池や 蛙飛込む 水の音

18, 「古池や・・・」の句碑：深川江戸資料館

・ 建立：割烹「はせ甚」久保田氏寄贈

・ 場所：【東京都江東区白河1-3-28【東京メトロA3出口から徒歩3分。】



【句 碑】古池や 蛙飛込む 水の音

19, 墨直し・由緒塚碑の句碑：臨濟宗妙心寺派臨川寺

・ 建立：不明

・ 場所：【東京都江東区清澄3 - 4 - 6【東京メトロ半蔵門線 「清澄白川駅」A3出口から徒歩5分】



【句 碑】我が師は 伊賀の国に 生まれて

20, 「いかめしき・・・」の句碑：臨濟宗船舶寺

・ 建立：天保14年【1843】10月 星野連 星喜庵北因 書

・ 場所：【東京都品川区大井4丁目5 - 2 京浜急行線 鮫洲駅出口2から国道15号線の跨線橋を渡り右方向へ徒歩約5分。



【句 碑】いかめしき 音やあられの 檜傘

21, 「梅香に・・・」の句碑：多摩川2丁目児童公園

・ 建立：嘉永元年【1848】3月 台山

・ 場所：東京都大田区多摩川2 - 28 - 1 斉藤ツ井ストドリル製作所 多摩川2丁目児童公園移設される。〔東急多摩川線矢口渡駅下車 徒歩約10分〕



【句 碑】 梅香に のっと日の出る 山路哉

22, 「みちの辺の・・・」の句碑：真言宗智山派真福寺〔赤門寺〕

・ 建立：年代不詳

・ 場所：東京都世田谷区用賀町4 - 14 - 4 〔東急田園都市線用賀駅下車徒歩約10分〕



【句 碑】みちの辺の 木槿は馬に 喰われけり

23, 「眼にかゝる・・・」の句碑：御嶽神社 本殿左〔祭神：日本武尊〕

・ 建立：文化年間【1804～1817】年

・ 場所：東京都渋谷区1 - 12 - 16：〔JR渋谷駅下車 徒歩約10分〕



【句 碑】眼にかゝる 時や殊更【ことさら】月不二【さつきふじ】

24, 「しばらく八・・・」の句碑：金王八幡神社 本殿右〔祭神：応神天皇〕

・ 建立：年間【1804～1817】 太白堂入山奴社中 景山大野翠椎園 書

・ 場所：東京都渋谷区3 - 5 - 12 本殿右：〔JR渋谷駅南口下車 徒歩約5分〕



【句 碑】 しばらく八 花のうへなる 月夜かな

25, 「初しぐれ・・・」の句碑：日蓮宗蓮華寺 参道左

・ 建 立：明治29年〔1896〕霜月

・ 場 所：東京都中野区江古田1-5：〔JR総武線中野駅北口下車 番バス乗り場  
京王バス江古田行き哲学堂蓮華寺下車 進行歩行徒歩3分。〕



【句 碑】初しぐれ 猿も小蓑を ほしにけり

26, 「目にかかる・・・」の句碑：学習院大学 富士見茶屋跡

・ 建 立：金子直徳白兔園宗周 文化7年(1810)。

・ 場 所：東京都豊島区目白1丁目1-5-1：JR山手線目白駅下車 徒歩約1分。



(句 碑)目にかかる 時や殊更 五月富士

27, 「しら露も・・・」の句碑：真言宗豊山派真性寺

・ 東京都豊島区巣鴨3-21-21 : 〔JR山手線巣鴨駅下車  
徒歩 7分〕

・ 建 立： 寛政5年(1793)5月：採茶庵二世梅人社中



(句 碑) しら露も こほさぬ萩の うねり哉



28, 「父母の・・・」の句碑：真言宗豊山派 東高野山 長命寺 本堂左

・ 建立：年代不詳

・ 場所：東京都練馬区高野台3 - 10 - 3【西武池袋線・練馬高野台駅下車徒歩5分】



【句 碑】父母の しきりにこひし 雉の声

29, 「魚鳥の・・・」の句碑：真言宗豊山派南蔵院 本堂桜の下

・ 建立：未詳

・ 場所：東京都練馬区中村町1 - 8 - 3：【西武池袋線中村橋下車 京王バス中野駅行き  
南蔵院バス停下車徒歩3分



【句 碑】魚鳥の 心はしらす としの暮〔年忘れ〕

30, 「象潟や・・・」の句碑：延命寺観音傍

・ 建立：1970年（昭和45）5月10日（川幡保 建立・書）

・ 場所：調布市深大寺元町5 - 15 1京王線調布駅北口下車 京王バス深大寺行終点。



【句 碑】 象潟や（きさかたや）あめに西施が（せいし）  
合歡の花（ねぶのはな）

3 1 , 「此あたり目に・・・」の句碑：稲城市但馬稻荷神社本殿右（地区会館横）

- ・ 建立：創建年代不詳。幕末期の寛永・安政期のころ繁栄を極めたと伝承されている。
- ・ 場所：ＪＲ南武線稲城長沼駅から旧川崎街道を南武線の踏切を渡り、更に進むと、但馬稻荷神社が旧川崎街道沿いにある。



【句 碑】此のあたり 目に見ゆるもの 皆涼

3 2 , 「名月に・・・」の句碑：天台宗常楽寺 本殿左傾斜地

- ・ 建立：年代不詳。
- ・ 場所：稲城市東長沼 2 1 1 7 - 2 : 京王線 相模原線稲城駅下車徒歩5分。



【句 碑】名月に 麓のきりや 田のくもり

3 3 , 「梅かに・・・」の句碑：真言宗豊山派 金剛寺 しだれ桜下

- ・ 建立：年代未詳 当山 3 5 世 本亮誉 横川好：書
- ・ 場所：青梅市青梅 1 0 3 2 : 【ＪＲ・青梅線 青梅駅下車 徒歩約 1 0 分】



【句 碑】 梅が香に のっと日の出る 山路かな

34, 「行く春に・・・」の句碑：琴平神社 社殿裏〔養蚕の神〕

・ 建立：明治41年(1908)3月10日 当町 青木太助

・ 場所：青梅市本町220：【JR・青梅線 青梅駅下車 徒歩約20分】



【句 碑】 行く春に 和歌の浦にて 追付たり

〔メモ〕青梅も五日市〔現あきる野市〕も戦前までは養蚕の盛んなところだった。それぞれ養蚕の神を祀る神社として琴平神社が町を見下ろす山の上に建っている。

35, 「玉川の・・・」の句碑：禅寺臨濟宗建長寺派常保寺 庫裡の前

・ 建立：再建慶應3年(1867)旧碑年代未詳 小菘庵連中当時の住職

・ 場所：東京都青梅市滝ノ上町1316



【句 碑】：玉川の 水におほれそ おみなえし

36, 「梅が香に・・・」の句碑：松葉屋前 庚申塔 右(吉野街道沿)

・ 建立：再建碑 昭和41年(1966)3月 梅郷観光協会他(旧碑は明治27年の  
大火で大破した。)

・ 場所：青梅市青梅梅郷4-697：【JR・青梅線 青梅駅下車 バス吉野梅郷行き吉野  
梅林下車 徒歩約5分】



【句 碑】 梅が香に のっと日の出る 山路哉

37, 「山路来て・・・」の句碑：穴澤天神社

・ 建立：安政4年(1857)12月上旬 天則堂社中

・ 場所：あきる野市深沢210：【JR・五日市線 武蔵五日市駅下車 徒歩約30分】



〔句 碑〕 山路来て 何やら床し すみれそう

〔メモ1：あきる野市深沢に祀られた神社です。深沢地区の鎮守として尊崇を集めています。延喜式神名帳の穴澤神社の論社であるという説もあります。〕

〔メモ2：取材を終わって〕初めてJR五日市線に乗り武蔵五日市駅に降りました。この駅は「秋川渓谷」の主要駅です。秋川渓谷は多摩川の支流の中でも最大の支流といわれる秋川。その内、網代橋から檜原村の南、北秋川に及ぶ全長約20kmの部分特に「秋川渓谷」と呼びます。

38, 「春もやゝ・・・」の句碑：福生神明社〔五柱の神々と七祭神を合祀した神社です。〕

・ 明治10年(1877)3月 福泉社友穂甫

・ 場所：東京都福生市福生1081【JR・青梅線 福生駅下車 徒歩約5分

福生消防署真向か



〔句 碑〕 春もや けしきとゝふ 月と梅

39, 「先ずたのむ・・・」の句碑：曹洞宗永泉寺 本堂前

・ 建立：明治43年(1910)4月 一味庵 書：三森幹雄

・ 場所：東京都八王子市由木鎌水80：【JR横浜線橋本駅下車 京王バス NO4乗り場 南大沢行き永泉寺入り口下車 徒歩約5分】



〔句 碑〕 先ずたのむ 椎の木もあり 夏木立

40, 「蝶の飛ぶ・・・」: 永福稲荷社殿裏鉄柵の中〔八王子新町の鎮守で祭神は倉稻魂命です。〕

・ 建立: 旧碑 寛政12年(1800)秋(消滅) 再建碑 昭和24年(1949)9月  
松原庵九世大虚 書

・ 場所: 東京都八王子市新町5-5: 【JR横浜線八王子駅北口下車 カラオケの看板が見える道路を通り国道20号線超え直ぐ。



〔句 碑〕 蝶の飛ぶ はかり野中の とおけかな 1

41, 「ひはりより・・・」 浅川老人ホーム 玄関前傾斜地

・ 建立: 天保11年(1840)12月小仏峠より移建

・ 場所: 東京都八王子市裏高尾町957: 【JR中央線高尾駅北口下車 西東京バス蛇滝口入口下車 徒歩約5分



〔句 碑〕 ひはりより 上にやすらふ とうけかな

42, 「さまさまの・・・」の句碑: 八幡神社 石段を登って右 灯籠の傍

・ 建立: 昭和30年(1955) 昭和40年発見 元八王子松原庵社中 松原庵雲居 書

・ 場所: 東京都八王子市元八王子3-2274: 【JR中央線高尾駅北口下車 京王バスNO3バス停〔20号線(甲州街道)沿いの交番前から京王八王子行き「城山大橋」下車 徒歩5分〔エコマ八王子店裏消防署角を登る〕



〔句 碑〕 さまさまの 事もおもひ出す 桜かな

〔メモ〕: 横山之庄(八王子を中心に方数理)の総鎮守と言われております。

43. 「しはらくは・・・」の句碑：辺名ロータリー 桜の下

- ・ 建立：文化7年（1810）松原庵社中 太白堂古月 書
- ・ 場所：東京都八王子市下恩方246：【JR中央線高尾駅北口下車 西東京バス NO1バス乗り場 恩方車庫行き下車、少し進み下恩方工業団地入り口交差点を左に入ると「モリアオガエル」の道を暫く歩くと辺名ロータリーの桜の根元に「天明3年に刻まれた青面金剛の庚申塔と共に芭蕉の句碑がある。」



〔句 碑〕 しはらくは 桜の上なる 月夜哉

44. 「西行の・・・」の句碑：曹洞宗長心寺

- ・ 建立：蚯庵主高味石田 獅子庵十七世千秋庵 書
- ・ 場所：東京都八王子市下寺町72。：【JR横浜線八王子駅南口下車 徒歩約10分。】



〔句 碑〕 西行の 草履もかゝれ 松の露

45. 「しばらくは・・・」の句碑：百草園 池の畔治

- ・ 建立：明治20年【1887】初冬 平戸清八
- ・ 場所：東京都日野市百草500：【京王本線 百草園駅下車 徒歩15分】



【句 碑】しばらくは 花の上なる 月夜かな

46, 「春もやゝ・・・」の句碑：百草園 池の畔

・ 建立：明治20年【1887】初冬 平戸清八

・ 場所：東京都日野市百草500：【京王本線 百草園駅下車 徒歩15分】



【句 碑】春もやゝ けしき調う 月と梅

【メモ：語り継がれる名園】

・ 江戸時代の享保年間【1716年～】、小田原城主大久保侯の室であった寿昌院慈岳元長尼が徳川家康の長男・信康追悼のため当地に松蓮寺を再建しました。その後、時代を経て作られたのが京王百草園です。園内の有には50種 500本の梅たちが咲き競い、園の華やかさも最高潮に達します。【小さな散歩道「京王百草園」より引用。

47, 「名月に・・・」の句碑：真言宗智山派別格本山

「高幡不動尊金剛寺」 五重の塔下

・ 建立：明治20年【1887】3月 三堀武蔵月華

・ 場所：東京都日野市高幡733：【京王本線高幡不動駅下車徒歩5分】



【句 碑】名月に ふもとの霧や 田のくもり

(解説)

【メモ】関東三大不動尊：征夷大將軍が支配していた歴史の有る関八州における成田山新勝寺、高幡山金剛寺、玉嶺山總願寺〔ぎょくとうさん：埼玉県加須市〕の3つの不動明王を本尊とする寺院の総称。總願寺に代えて雨降山大山寺〔あぶりさんだいさんじ、おおやまでら〕を加える説もある。總願寺、大山寺に代えて高貴山常楽寺〔こうきさんじょらくじ〕加えらるとする説もある。

48, 「旅人と・・・」の句碑：曹洞宗東雲寺 参道

【町田市成瀬吹上「バス停」から移設】

・建立：玉翠・松山ら 松竹舎梅谷 書

・場所：東京都町田市成瀬4-14-1番地 奈良谷戸 【JR横浜線成瀬駅下車徒歩15分】



【句 碑】旅人と 我名呼ばれん 初時雨

49, 「暫くは・・・」の句碑：臨済宗建長寺派宗禅寺（川崎馬頭観音）

建立：昭和12年（1937）陽春 蓬中舎二世寿蒼

・場所：東京都羽村市川崎2-8-20 【川崎馬頭観音〔JR青梅線羽村駅下車徒歩約10分〕】



〔句 碑〕 暫くは 花の上なる 月夜かな

50, 「山中や・・・」の句碑：奥多摩水とみどりのふれあい館前

・建立：小河内温泉神社前より昭和53年移建（年代不明）

・場所：東京都西多摩郡奥多摩町原5 【JR・青梅線 奥多摩駅下車 西東京多摩湖行き  
奥多摩湖下車 徒歩約2分】



〔句 碑〕 山中や 菊は手折ぬ 温泉の



5 1 , 「春もやや . . . 」 「こんにやくの . . . 」の句碑 : 東京向島百花園

・ 建立・ 建材 : 不明

・ 場所 : 東京都墨田区東向島 3 - 1 0 - 3 : 【東武伊勢崎線「東向島駅」下車 徒歩約 8 分。】



〔 上 図 〕 : 『春もやや けしきととのう 月と梅』



〔 下 図 〕 : 『こんにやくの 刺身もすこし 梅の花』

5 2 , 「春もやや」の句碑 : 龍巖寺山門入口右側 : 臨濟宗南禅寺派寺院

・ 建立 : 不明

・ 場所 : 東京都渋谷区神宮前 2 - 3 - 8 : 【JR 山手線 : 「原宿駅」下車 徒歩約 3 0 分。】



〔 句 碑 〕 : 『春もやや けしき調う 月と梅』

5 3 , 「ひよろひよろと」の句碑 : 熊野神社社殿右側 : [ 祭神 : 倭姫命 ]

・ 建立 : 明治 7 年 ( 1 8 7 4 ) 9 月宝雪庵可尊ら

・ 建材 : 不明

・ 場所 : 国分寺市西恋ヶ窪 1 - 2 7 - 1 8 熊野神社

【 JR 武蔵野線「西国分寺駅」下車 府中街道を立川方向に徒歩約 2 0 分。】



( 句 碑 ) ひよろひよろと なほ露けしきや をみなえし

54, 「行く春や・・・」・・・はせを翁」

- ・ 建立：文政3年（1820）10月12日 山崎鯉穩 亀田鳴齊
- ・ 場所：東京都荒川区南千住6 - 60 素盞雄神社
- ・ 祭神：素盞雄大神・飛鳥大神（事代主神）
- ・ 〔東京メトロ千代田線南千住駅 下車徒歩約10分〕



（句 碑） 行く春や 鳥啼き魚の 目はなみだ